

【歴史点描 3】 中世に始まった網干の歴史

余子浜・新在家・興浜を中心とした網干のまちは、中世に発展の礎をつくり、江戸期には繁栄を極めたと考えられます。中世網干の富裕は、古網干遺跡の出土遺物によって指摘できます。その繁栄の要因は、重文「兵庫北関入船納帳」からみて、舟運にあったことは確実でしょう。網干の寺院の由緒によると、西暦1500年前後のおよそ100年間に、10カ寺も創建または大規模移転しているのです。当時の網干の富を伝えて余りあるこの物語は、江戸時代の「灘屋三兄弟による龍門寺建立譚」へと引き継がれているのかもしれない。

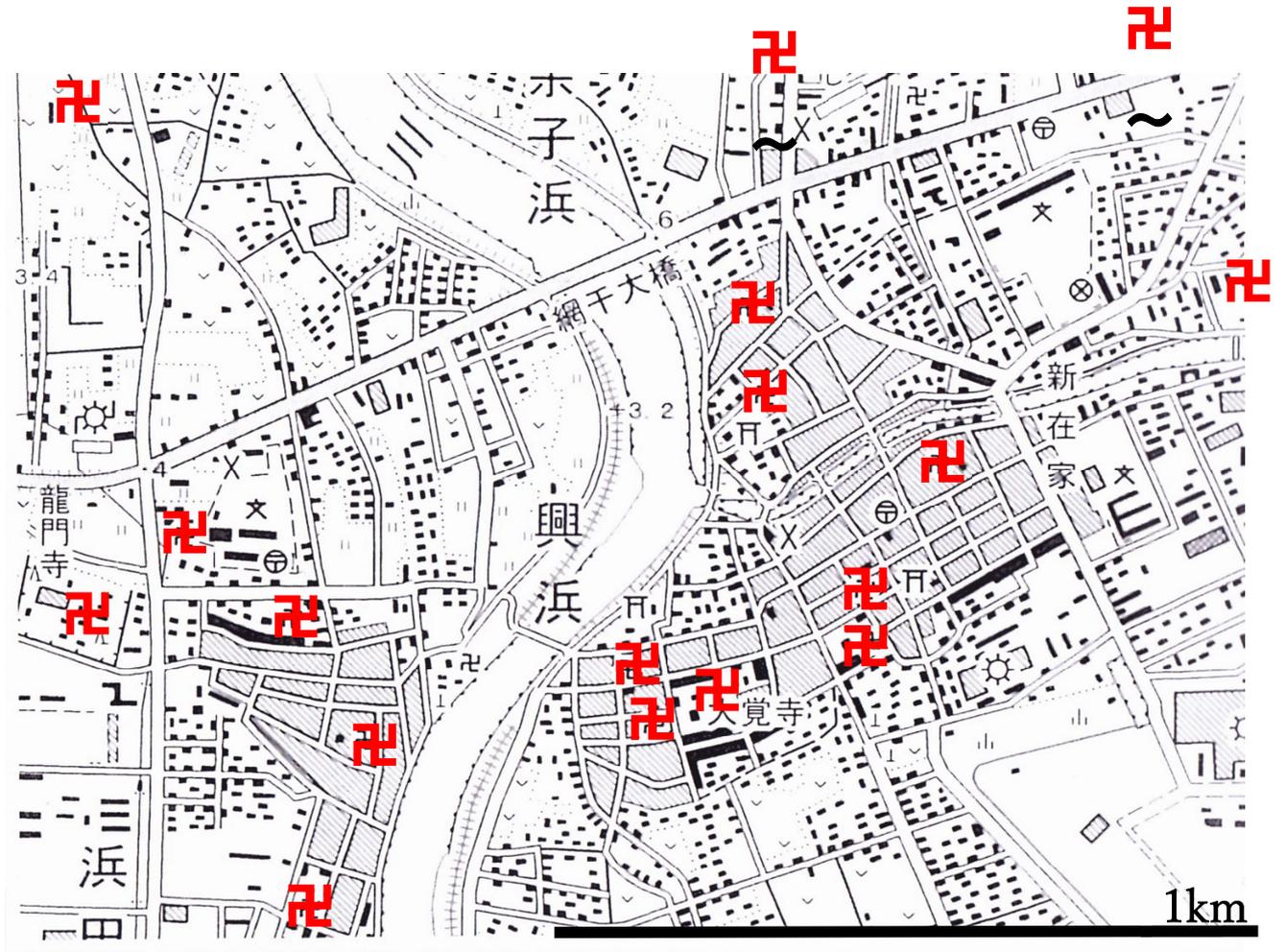
近世から近代にかけての絶頂期の様子は、まちなかの街道や橋、歴史的建造物が、雄弁に語ってくれています。さらに、路地、水路にいたるまで、わたしたちが目にするあちこちから、歴史の遺伝子を発見することができるでしょう。

網干には、絵図を含む古文書も豊富です。

紐解けば、当時の人々の生活が、生き活きとよみがえってくるにちがいありません。

景観から、そして文書から…、かけがえのない網干の歴史を知る機会は、意外にも周囲に満ちているのです。

網干の寺院、多くは中世の創建



国土地理院発行 2万5千分の1地形図を改変